

ひがし しらかわ 広報

No. 172

'49 7 / 10

人口の動き

人口 3,996人
世帯 957世帯
出生 6人
死亡 3人
転入 9人
転出 15人

— 5月末住民登録人口から

■ 発行 / 岐阜県加茂郡東白川村 ■ 編集 / 企画広報課 ■ 印刷 / 関市中部印刷



白さが輝く 繭の出荷

次々と白さのまぶしい繭が運び込まれてきます。

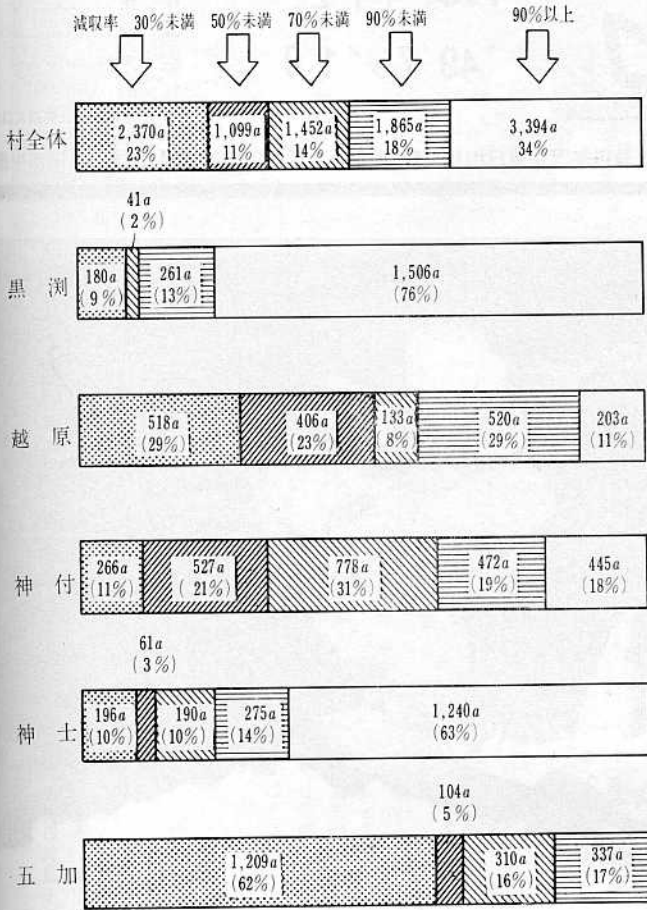
ことしの春蚕は、桑の生育もよく、心配された病害虫の発生もなくて好調。

養蚕農家にとって、いちばんうれしい時、心をこめて飼育した疲れを忘れる時といえます。

主な内容

- 茶の寒干害と一番茶の共販 2~3P
- 受け継がれた郷土の味 4P
- 明るく暮らしやすい社会を ... 5P
- 成人病検診を8月に 6P
- 村民野球大会の結果 7P
- 参議院選挙の結果と災害予防 8P
- 村の文化財、暮らしと健康 ... 9P
- 食事で健康回復... 10P
- お知らせは2ページ下欄から

茶寒干害のまとめ



村の茶園のほとんどが被害を受けた今年の寒干害の調査結果と、さしあたっての対策が決まりました。
 減収率三〇割以上の茶園は、総面積の七七割に当る七十八ヘクタールにも達し、樹勢回復用の肥料配布や、昨年貸付けを行った特別融資の一年繰延べ償還などの対策が具体化したものの、今後本村の茶業振興に大きな研究課題を提起したといえます。

寒干害 茶園農家に大きなパンチ

まず県・村費で樹勢回復用の肥料配布

おとし昨年と二年続きの凍霜害で、大きな打撃を受けた村の基幹作物の茶が、今年さらに、寒干害という考えもしなかった大被害に見舞われました。

昨年暮れから、今年の二月にかけての異常な寒さと乾燥によって茶の幼木はもちろん、植栽後七八年も経たような成木まで枯れてしまおうという最悪の被害で、かつて経験したことのない痛手を受けました。

農家では、増産を目ざし、大きな投資を続けているものの、三年続きの被害のうえ最悪の被害箇所では、茶株を台切りし、更新をしなければならぬ状態となっています。

村にとっても、農業構造改善事業や山村振興事業によって、重点的に振興施策を講じ、やっと軌道にのり始めていた矢先だけに大きなショックといえます。

寒干害は凍霜害と違い、被害程度の判明も日時を要し、村が六月十日までにまとめた資料によるとほとんどの茶園がどれだけの被害を受けています。

村では、二月以後被害調査を行い、被害茶園に対する応急対策についての現地研修会をはじめ、パンフレットなどにより、指導啓蒙とともに樹勢回復の助成措置について、各関係機関に要請し、村における対策を検討してきました。議会においても、現地調査や協議会を開いて対策を協議し、各方

けいじばん



■人の動きあれこれ

誕生おめでとう
 ございます。

(五月)

(平) 西垣 誠 寛 人

(平) 安江 和恵 長男

(平) 安江 建夫 未 緒

(平) 安江 謙次郎 良子 長女

(黒瀧) 安江 房好 清子 長女

(黒瀧) 安江 房好 真由子 長女

(柏本) 栗本 忠一 光子 長女

(柏本) 栗本 幸子 久美子 長女

(栃山) 安江 剛知 昌子 長女

(種口) 靖時 (白川町) 昌子 長女



いつまでも
 おしあわせに

(種口) 靖時 (白川町)
 (種口) ちか子 (中谷)



おくやみ
 申しあげます

今井 好美 (柏本)
 田口 さき (西洞)
 安江 林 弥 (大明神)

面への働きかけを行いました。
その結果、県から樹勢回復用肥料などの購入費補助金が交付されることになり、現在次のような対策が講じられています。

- 一、県費、村費補助などによる樹勢回復用肥料を、減収率三〇パーセント以上の農家を対象にし、特に、被害程度の大い農家に重点をおき、六月十七日配分しました。
- 二、昨年貸付した凍害対策経営資金特別融資償還金(貸付額の半額)については、特に被害が大きく償還できない方については、一年繰延べすることにし、現在各製茶組合に依頼して調査中です。

村費補助額

百二十二万三千四百五十円

三、樹勢の回復を早め少しでも多く生葉の生産できるように指導と、今後こうした気象災害に耐えることのできる茶園造りをすすめる必要があり樹勢回復用の施肥、防除や茶園の排水、茶株の更新の問題などについて農家経営に密着した指導の充実を図ります。

四、その他、

経営面などについて特に問題のある方については、今後相談に応じよう配慮します。
今年の寒干



→ 無惨に枯れた茶園

害が、東白川の茶業に残した教訓は多くあり、中でも、最も切実に感じさせられたのは、「樹勢」ということでした。

生産減を高値でカバー

予想上回る一番茶の成績

このような、かつて経験したことがない連続した気象災害により今年の一歩茶はほとんど収穫できないのではないかと心配されましたが、その後の農家の努力により予想以上の収穫がありました。

六月の終わりにまで一番茶の共販会が九回行われました。

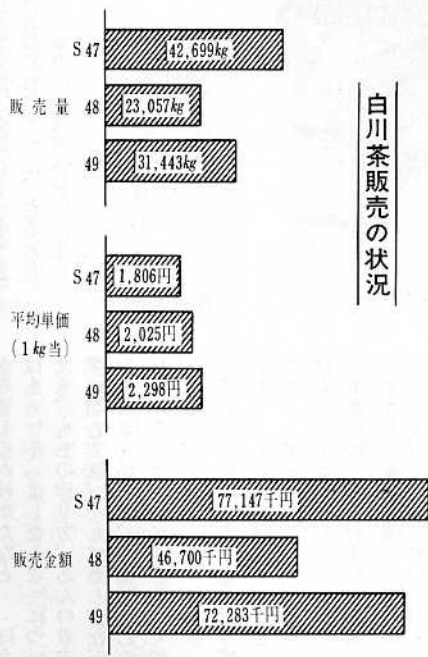
その結果、本村の荒茶の販売量は三十一トで、昨年より三六ト多く、史上最高のおとしよりは二七ト減っています。販売額も七千二百三十万円と、

きびしい寒さにも強い茶樹を作る事は、単に災害の防止だけではなく、生産の向上につながる茶業経営上のポイントでもあります。

昨年より五四ト多いものの、おとしより七ト下回りました。しかし、キロ当たりの単価は昨年より一三ト、おとしより二七パーセント増しで、販売量のわりに額が伸びています。

これは、今年行った品評会対策による良質茶の生産技術の向上目ざした、手摘みによる生葉の生産など農家個々の意欲と、加工技術の向上によって良質の荒茶が生産されたために、白川茶特有の高値を支えた結果といえます。

白川茶販売の状況



前号人の動きあれこれ欄にまちがいがありましたので、次のとおりお詫びして訂正します

(出生)

安江 竹良一を安江 まさよまさ子

(死亡)

安江 巳きを安江 わき

■標語を募集しています

県では、青少年をとりまく社会環境をよくする県民運動強調期間(七月二十一日〜八月三十一日)を設け、広くこの運動を展開することになりました。

この運動の一環として「青少年をとりまく社会環境をよくする」標語を一般から募集しています。

(内容)

よい環境、明るい家庭づくりおよび有害環境の除去などについての意義を強調したものを。

(応募方法)

官製はがき一枚に一標語(自作、未発表)とし、必ず住所氏名(ふりがな)年齢、職業、(児童生徒の場合は学校名、学年)郵便番号、電話があれば、番付を明記する。応募枚数の制限はありません。

(送り先)

岐阜市数田(郵便番号五〇〇)

岐阜県庁 育成指導課

(締切り)

昭和四十九年七月三十一日

(発表)

八月下旬に公表、直接本人に通知



受け継がれた郷土の味

伝承技術講習会は料理からスタート

村の栄養改善推進委員会（早瀬智登子会長、会員八十九名）と老人クラブ連合会（村雲順一 会長、会員約六百名）では、さる六月十日から三日間、郷土に伝わる季節料理の伝達講習会を行いました。

村に伝わる素材で郷土色豊かな季節料理の歴史は古く、先祖代々受け継がれてきています。

しかし、最近では食生活の改善や忙しさによるインスタント化によって、しだいに各家庭の食卓から消えていく傾向にあります。

こうしたことはお年寄りから若い人たちへ作り方の技術を伝える機会も失なうことになり、反面最近になって自然食や郷土色豊かな料理が見直されてきたにもかかわらず、作り方がわからない、教えてくれる人がいないことから作れない若い主婦も多くいます。

そんなことから、同委員会と老人クラブで話し合いがまとまり、伝達講習会を開いたところ三地区ともお年寄りや若い主婦の予想以上の参加があった、関係者を驚かせました。

今年度伝達講習会を行なったものは「ほうばずし」、「ほうばもち」、

「よしだんご」の三種類で、時的にも材料となるほうの木やよしの葉が青くやわらかく、そして香りが高くなっている時です。



↑ この講習は世代の交流に役立ったようです

むかしはどこでも田植えの終わった時には必ずどれかを作り、豊作を祈願しておそなえをしたものと、教えるお年寄りたちも感慨深げでした。

どの会場も朝早く集合「ほうばずし」については、ごはんのたき方から「す」の混ぜ方、盛りつけ

から重しのかけかたなど、「ほうばもち」や「よしだんご」についても、もちの作り方、あんの煮方葉に包む方法、そして蒸し方などおばあさんがたは、計量器なしのいわゆる「カン」で手ぎわよく説明します。

若い人たちは、とまどったり感心したりしながら、ひとつひとつの技術を覚えるため、いっしょうけんめいでした。

お昼には、できたものを試食し忘れかけていたふるさとのお味に舌つつみをうち、なごやかな話と笑いのなかで、もうひとつ世代の交流にも大きな役割りを果たしていたようです。

話の中には逆にお年寄りから、現代の料理献立をプリントにして欲しいといった声もあり、新旧と混ざった献立も考えなければならぬ課題も提供されました。

伝承講習は、今後何回か開く予定で、古い菓子、漬物など含めた保存食など、まだまだ貴重で実用性に富んだ技術を受け継がせたい受け継ぎたいと両世代とも大張り切りです。

一方、この伝承講習は料理部門ばかりにとどまらず、わら細具や竹細具などの生活部門まで計画され、失なうてからは遅いすべのこをひとつでも多く、今のうちに受け継ごうと村ぐるみの気風が盛り上がりつつあります。

今後の発展が大いに期待されます。

ひがししらかわ

（賞）
入選 一名
佳作 若干名
青少年センター事務局長賞
と記念品



今日の お料理

■新じゃがいものそぼろ煮

（材料、四人前）

じゃがいも五百g、かしわひき肉二百g、かたくり粉小さじ一ぱい、しょうがが大一個、砂糖しょう油、酒

（作り方）

一、粒の揃った小粒の新じゃがいもを洗って皮をむき、あく抜きする。

二、しょうがをみじん切りにする。

三、なべにみじん切りましたしょうがと、酒大さじ一ぱい、砂糖二ぱい、しょう油三ぱいでかしわひき肉がばらばらになるよう煮る。

それにじゃがいもを水気を切っけ加え、ひたひたより少し多めの水に、砂糖、しょう油各大さじ一ぱいを加え、煮だしたら火を弱め、時々回しながら汁が三分の一くらいになるまで煮る。

器にじゃがいもだけを盛り残りの汁に水とききたかたくり粉を入れ、とろみをつけて

明るく暮らしやすい社会を

青少年の非行防止が重点目標

七月は第二十四回社会を明るくする運動の月間です。

これは、私たちの回りから非行を追い出し、犯罪を防止し、更生を伸ばして明るく暮らしやすい地域社会をつくることを目的とし、とうぜん私たちの願いでもあるわけです。

重点目標に「青少年の非行防止のため地域活動の推進」を掲げ、本村でも、保護司会と社会福祉協議会を中心にこの運動を強力に推進します。

さらに広範囲に押し進めるために家庭や、学校、職場でも積極的に参加して協力いただくよう望んでいます。

七月は夏休みに入る月です。長い期間の休みのうちに開放的になり、青少年の非行が毎年数多く上げられ、年々、非行少年が低年齢化しつつあります。

その原因については、いろいろな問題があるようですが、マスコミによる影響が非常に大きく、対話のない家庭、進学のための偏面的な教育など、青少年の非行化への誘いは私たちのまわりに限りなくあるのです。

しかし、この現実から決して目

をそむけるわけにはいきません。

非行を責める前に、まず大人の社会的責任も反省しなければならず、それによって非行を是正する義務もあります。

最近の少年の非行行為の一例をみてみましょう。①喫煙。②夜遊び。③不健全娯楽。④怠学。⑤飲酒などでも、年々低い年齢層に広がっています。

どのようにしたら非行化を防ぐことができるか、身近かな問題をとりあげてみましょう。

■青少年の孤独感

これが赤信号のようです。

家庭においては最近の物質的な生活の伸びに伴い、出かせぎ、共かせぎが増えて、本村の家庭の姿が薄れていること。

上級学校への進学のために、能力以上に親から学習を強いられる少年たち。職場で得た給料を、あやまった使い方をする者たち、子供と大人の間で苦悩する青少年た

ちには、孤独の影がさしているといえます。

■対話

人と話し合うことは何につけても、いちばん大切なことです。

まして、自分の子供、教える、後輩などには、とうぜん話し相手になるべきはずなのが、どうしてか近ごろ少なくなってきた。



云われています。

これでは、たとえ非行の子供ができて不思議ではありません。

非行化を未然に防ぐために、私たちは今、現に自分の家庭をかえりみることが、最も大切なことです。

世間ではよく、他が悪いからこうなったのだというのを耳にし

ますが、それは責任のがれにすぎず、自分の家の子に限って、などというようなあやまった過信も、反省してみるべきです。

また、職場、学校などでも常に話し合えるような環境が、絶対必要です。

スポーツクラブを通して、同好のサークルを通して、おたがいに健全な方向に進むことができたなら非行化の心配はいりません。

上手だから、好きだからクラブでなり、サークルに入ること以外に、非常に内向性の強い青少年で自分から進んで入ろうとしない者にも、指導される人は、じゅうぶん留意していただき、仲間として暖かい愛情が必要ではないでしょうか。

毎月第三日曜日は「家庭の日」として全県下で明るい家庭づくりが行われていますが、何ごとにおいても社会の基礎となるものは家庭です。

家族の連帯感を強くし、責任ある行動、暖かい心が養われてはじめて、地域社会が充実し、明るい社会となります。

あらゆる機会に私たちは、耳をかたむけ、語り合い、協力し、理解し合って社会を明るく住みよいものにしたいたいです。

村では、この運動の一環として村内主要な所に写真のような立看板を設けています。

次代を引き継ぐ青少年たちに目を向けましょう。

けいじばん

じゃがいもの上にかける。子供たちが、待ちに待った夏がやってきました。汗を流して帰る子供に、手作りのおやつはいかがでしょう。

■牛乳で作るアイスクリーム (材料八人前)

卵黄二個、砂糖七十g、牛乳二本、バナラエッセンス、コンスターチ小さじ一ぱい (作り方)

一、ボールに卵黄二個と砂糖、コンスターチを入れよくかき混ぜる。

二、牛乳を入れ、混ぜたら湯せんにかけて混ぜ、とろりとしたら火からおろし、エッセンスを加える。

三、容器に流し入れて、冷凍庫で半分くらいまで冷やし、固めた後、あわだて器でじゅうぶんかき混ぜて空気を含ませもう一度冷やし固める。

■野菜の完全利用 (レタス)

レタスは、表の皮をむいてポイと捨てがちですが、ちよっとお待ち下さい。

表の皮はかたくて生食には向きませんが、ザブザブ洗って水切りし、指先で大きめにちぎり、フライパンにバターかサラダオイルを入れ、煙が出た瞬間、レタスをパッと入れ大きくかき混ぜてきりです。

熱いうちに器にとり、塩、コショウをふりかければおいしくいただけます。

健康自慢こそ受検を

今年も十四カ所で成人病検診

村では、この八月六日から三日間、村内十四の会場で成人病検診の予防検診を行います。

毎年行っている成人病検診は、ひとりひとりの健康度に応じて検診の利が違い、予防検診、精密検診、管理検診の三つに分けられます。

今度行う予防検診の対象者は、前年度受けなかった人、今年三十歳になった人、前年度の検診で健康と判定された人です。

目的は、年一回の健康状態の確認、成人病の予防、早期発見などです。成人病の診断というより、異常がないかどうかふるい分けのための検診といえます。

私たちは、どこか痛ければ、苦しければ医者にもかかり、真剣にそれを治そうと努力しますが、普通に働けてどこも痛くなければ、自分の健康管理を忘れがちです。

自覚症状があまりない血圧ぐらいたばかにしていけません。それが死亡原因第一位の脳卒中へとつながるのです。自分ほだれにも負けないくらい働ける、食欲もあるよく眠れる医者な

成人病はまずこの手で



どこにかかったことがないと自慢している方にこそ、成人病検診が必要なのです。健康で明るい家庭を支える一家の主人、主婦の皆さんは、今いちど成人病の恐しさを認識し、揃って受検して下さい。細部は、七月の終わりに連絡します。



ぼくのおじいちゃん

神土小1年 有田 純也

神土下親田 有田亨さん次男

ぼくのおじいちゃんは、せんとうでめをやられたのでめが一つしかありません。おじいちゃんは何んでもかかってくれます。そしてさけをのみます。やきゅうがだいすき。

交通法令講習会開催のお知らせ

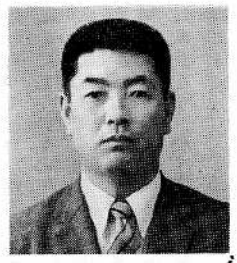
日 時 8月11日
午前9時30分から(神土地区)
午後1時から(越原、五加地区)
場 所 東白川村体育館
講 師 加茂警察署 交通課長

運転免許証をお持ちの皆さんは必ず受講下さい。道路交通法は毎年改正され、運転に従事する者は、法を学び守ることが義務づけられています。事故や違反をなくして明るい社会づくりのために全員が受講されるようお願いいたします。

東白川村交通安全対策協議会
加茂交通安全協会東白川支部
加茂警察署



今後の社教活動に期待



日比野弘さん

この七月一日から、県の派遣社教主事として日比野弘さん

(四十二歳)が赴任されました。人なつこい目と笑顔でだけれども好かれそうな日比野さんの出身は美濃加茂市。岐大を卒業後約二十年、中学校の教師として人材育成に努力されてきました。特に体育部門は、ご自身が庭球をはじめスポーツならなんでもOKということで、スポーツを通じて仲間づくりを押し進めている村にとっては、もってこいの指導者といえそうです。今後は、村の教育委員会に所属して社会教育部門を担当されることになり、その手腕が期待されています。

スポーツ

スポーツ

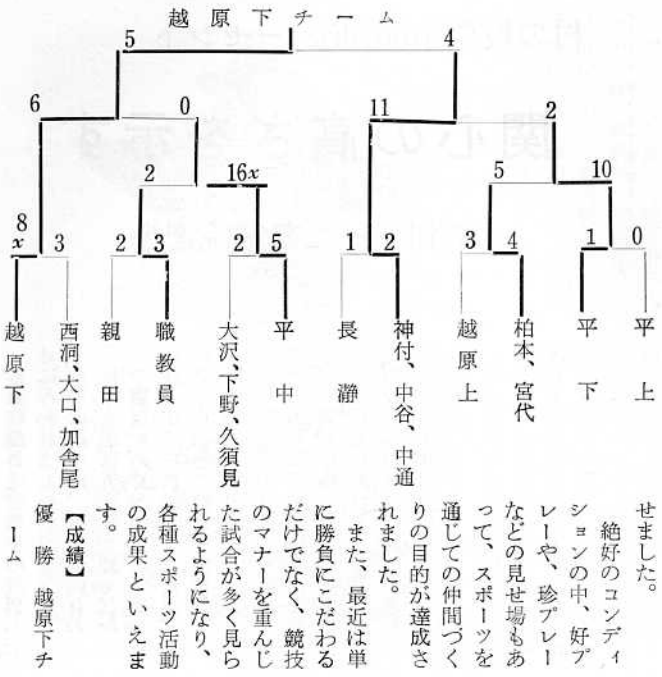
スポーツ

第二回村民野球大会

越原下チームがみごと優勝

十二チームが参加、熱戦を展開

第二回村民野球大会は、各地域から十二チームが参加し熱戦を繰り広げましたが、越原下チームがみごと優勝の栄誉に輝きました。試合は、さる六月十六日二回戦まで八試合、十九日に準決勝、二



準優勝 神付、中
通、中谷チーム
三位 平中、平
下チーム
最優秀選手賞 松
岡洋一
(越原下)
最優秀投手賞 〃
敢闘賞 村雲勝也
(神付)
首位打者賞
吉村隆男
(平中)
最多打点賞 〃
ホームラン賞
田口喜章
(神付)

7月28日
郡体が本村で
村ぐるみの声援を



← 村長から喜びの優勝旗を受ける

昭和四十九年度加茂郡体育大会が、この七月二十八日(日曜日)に白川町と東白川村を中心に開かれることになりました。このうち本村では、男女ソフトボールを総合運動場で、卓球を体育館で、クレー射撃を親田の射撃場でそれぞれ行う予定です。またこれよりひと足早く七月二十一日(日曜日)には、東白川体育館でバスケットボールの試合が予定されています。加茂郡体育大会は、岐阜県体育大会の予選を兼ねており、昨年度は、村から百五十人の選手が参加し、四種目に優勝しました。本年度は、地元で大会が開催されるので、十一種目に百七十人の選手が参加する予定です、必勝を期し練習に励んでいます。みなさんのご声援をお願いします。

八月に開催

第三回村民野球大会

この八月十五日から、夜間照明を利用した第三回村民野球大会を予定しています。今度は、職場チームを主体にして大会を開きますが、チーム編成は自由で、職場、地域団体でふるって参加して下さい。申し込み期限は七月三十一日まで、受け付けは教育委員会で行っています。試合は、全部ナイターで行いますので、一般の皆さんも夕涼みを兼ねて応援して下さい。なお、昨年の大会には、各職場地域、団体から八チームが参加、熱戦を展開しています。■村民親睦ソフトボール大会は九月に開催

村内老若男女だれでも参加できる村民親睦ソフトボール大会は九月に開催が予定されています。地域割り、チーム編成は昨年どおりですから、早目に練習を開始して下さい。練習用ボールやバットは、総合運動場に用意してありますので自由にご利用ください。—教育委員会

村の投票率90.46パーセント

関心の高さを示す

審判下った参議院選挙

参議院議員通常選挙の投票が七日に行われました。

今度の選挙は、六月十四日の公示以来全国区五十四、地方区七十六の議席をめぐって激しい選挙戦が繰り広げられてきました。国民ひとりひとりの公平な審判が下されたわけです。

本村でも、五カ所の投票所で午前七時から投票が開始されましたが、早朝から終日の激しい雨によって出足が心配されたものの、最近の政治への関心の高さを示し、最終の投票率は九〇・四六割となりました。

開票は、午後八時から東白川村公民館で始まり、午後十一時半には地方区、全国区とも得票結果がまとまりました。

地方区得票

投票総数 二、五六〇
有効投票 二、五二三
無効投票 三七

投票区ごとの状況

投票区	有権者数	投票者	投票率
土付	940	865	92.02
下原	330	317	96.06
上原	569	507	89.10
加五	476	418	87.82
計	515	453	87.96
	2,830	2,560	90.46

(有効投票の内訳)

藤井 丙午 一、七七六
みのわ幸代 四三四
岩崎 昭弥 二二〇
ふせや修二 八一
山田 行彦 八
井口 春作 四

全国区得票

投票総数 二、五六〇
有効投票 二、四六五
無効投票 九五

(有効投票の内訳)
得票十票以上
近藤忠孝 一三〇九、長谷川仁 二八六、田中忠雄 一九八、さかの重信 一八八、小林国司 一六一、太田あつお 一五九、さか健 一三一、長田裕 二一九七、糸山英太郎 一六七、あんのう勝 一六四、岡

田広 一五四、宮田輝 一五三、大谷藤之助 一五二、まおか文太郎 一四七、山東昭子 一四四、横山フク 一三七、森下泰 一三五、鳩山威一郎 一三二、からたに道 一二六、丸茂重貞 一二五、高橋こうじ 一二三、源田実 一二三、目黒けさ次郎 一二二、野田哲 一〇〇、市川房枝 一〇九、あくね登 一九九、青島幸男 一七、山下春江 一六、加藤シズエ 一五、横井庄 一四、山口淑子 一四、内田芳郎 一四、福島つねはる 一二、田中 一二、菅藤栄三郎 一一、向井長年 一一、たぶち哲也 一一、福岡知之 一一

(按分票の小数以下は切り捨て)

災害は忘れたころに

日ごろの注意と準備が必要

最近全国的に、集中豪雨、台風地震によるがけ崩れなどの災害が多く発生し、尊い人命や財産に大きな被害がでています。

忘れたころ、突然やってくる災害を未然に防ぐことはなかなか難しいことですが、特にがけ崩れによる人身災害は日ごろの注意と準備によってある程度は防げるものです。

例えば、家の裏のがけから湧く水の状態、亀裂の状態、岩石の風化の状態をよく知っておくことが必要です。

これによって、防災上の維持管理や警戒、避難体制がそれぞれでき、いざというときに大いに役立ち、人身被害を未然に防ぐことができるのです。

岐阜気象台の資料によると、大

雨の降る時期は、六月、七月、九月が最も多く、一日のうちで時間的には、午前八時から九時前後、午後九時から十一時前後が多いとされています。

また、災害の発生時は、大雨の降った直後が多いとされています。

村では、地形的に住家がある程度がけ崩れなどの恐

れのある箇所を調査し、注意を呼びかけています。

山崖くずれの危険



これも早期発見 早期治療を

これから梅雨前線、台風、秋雨前線、あるいは集中豪雨など災害シーズンとなってきましたから、人身災害を未然に防ぐために、日ごろから十分な注意と警戒をして下さい。

特に本村の場合注意したいことは、雨によって道路や橋の被害が多く、大雨時や直後は調査が終わるまで自動車には乗らない方がよいでしょう。草にかくれた路肩、水に洗われた橋台など、一見安全そうに見える箇所に、大きな危険があることを忘れないようにして下さい。

村の文化財



11

■ 黒淵の燈籠様

黒淵橋から川下百ほど所に
松の二、三本と共にこの燈明塔が
ある。

岩盤と淵の美しさもあって、部
落の心の故郷であり、ことに夏は
水泳と憩いの場所となっている。

今から百五十年前の文政五年に
伊勢神宮遙拝所として建立された
もので、願主越原村庄屋越原雄右
エ門ほか三十人で村内安全祈願を
し、兼ねて金毘羅山、秋葉山の遙
拝所として雨乞い日より乞いをし



てきた所である。

高さ約三・五呎、底幅約一・二
呎、周囲の岩に杭穴が四つ残って
いる。製作は信州の人であり、当
地あたご様の石仏もその人の作と
言われている。

そばに月待碑二十三夜塔がある
天保九年建立で講中十人の氏名
が刻まれ、高さ約一・二呎。病人
平癒などの場合、月の出の遅い二
十三夜の晩に集まり、午前二時ご
ろの月の出を待つ祈願したもので
御嶽教の行者が司った信仰行事
で、団結や行政の方法でもあった
という。

さらにそばには一呎ほどの南無
阿弥陀仏の碑がある。元文四年と
刻まれているから二百三十五年前
のもので、かたわらの花崗岩の仏
像は風化していて惜しい。
もとは少し離れた路はたの野に

あったが、道路改修によりこの岩
上に移したもので、旅人が安全祈
願のため建てたものといわれる。
部落が開けた年代はまだ明らか
ではないが、近くの富田の畑の石
垣に次のように刻まれているので
三百年前には開けていたのだら
う。

「寛文五年田ひらく山本安江弥
右門富之……(不明)……」。
雨乞いについては、敬老の話に
よると大明神から、ひのきの大木

農繁期の疲れが十分とれないう
ちに、暑い夏になり食欲も減り、
何となく体中がだるく、活力がな
くなってはいないでしょうか。
そこで、今回は夏を乗り切るた
めの心得を考えよう。

夏バテを防ぐための生活といっ
ても何も特別の方法がある訳では
ありませんが、まず自分の生活を
点検してみてください。

- 一、疲れと休養のバランスがとれ
ているか。
- 二、緊張とたるみのバランスがと
れているか。
- 三、栄養のバランスがとれている
か。

口先だけでなく、実際の経験か
ら何はともあれ健康が第一だと
わかっていながら案外、粗末にし
ているのが自分の健康ではないで
しょうか。
丈夫な心と体は、一日や二日で
獲得できるものではなく、地道な
毎日の積み重ねが必要です。

に大縄をつけ、数人で引張り、大
勢で木やり音頭を歌い、たる酒を
飲んでこの燈籠様へきて祈願し、
さらに越原神社まで行って川の石
の上に大木をのせる。
やがて雨が降って水が出てきて
その大木が流れていくというので
ある。

大正三年以降は松火やたき火を
して遙拝祈願したことはあるが今
は行われていない。

文責(桂川完二)

一日の疲れはその日のうちにと
り除くくふうを。
疲れをとるといっても、全てを
忘れてただ寝る人、好きなスポー
ツや趣味をする人など、人それぞ
れでしょう。

自分でよい方法をくふうすると



夏バテを防ごう 10

ともに、体ばかりでなく、心が休
まる時間も忘れず。
次に、ふだんより丈夫な体をつ
くっておくことです。これはなん
といっても、栄養をバランスよく
とることですが、そのポイントと
して

■ 村の文化財の小冊子を発行
文化財保護委員会と教育委員会
では、今度「村の文化財」という
小冊子を発行、各家庭へ配布しま
す。

これは、まだ調査の途中報告と
もいえるものですから、疑問や誤
りがありましたら教育委員会まで
ご連絡下さい。

なお、調査もれのものや、収録
してある事項に類するものも報告
をお願いします。

一、米食中心の食生活を改めま
しよ。
米は副食がなくても、おいしい
のでつい食べすぎになります。
そして胃腸にも無理がかかりま
す。

二、バランスのとれた食事を
胃腸の負担を少なくするために
も、米食ばかりでなく副食を十分
にとってください。村ではこの春に
「毎日の食事を大切にしましよ
う」というポスターを各家庭に配
布しましたが、その表の六つの食
品群のうち、毎日各群の一品はと
るよう心がけて下さい。

三、食事は規則正しく、おいしく
よくかんで食べよう。
よくかむこと、気分よくおいし
く食べるとは、消化吸収をよく
し、吸収がよければ体の栄養とも
なるわけです。
以上のことに気をつけ、これか
ら、ますますすびしくなる夏を元
気に過ごして下さい。

